



出雲大社函館教會 社頭だより

平成二十三年秋季号
平成二十三年十月発行
出雲大社函館教會
函館市高松町三二七―三
電話 五七―四六七七

◆◆秋季例大祭社頭講話―要旨◆◆

日本のヨミガエリ

今年は何年に一度といわれる歴史的な『東日本大震災』の年となつてしまいました。あの三月十一日から七ヶ月経ちましたが、被災地の復興状況はまだまだとといった感じのようです。

出雲大社では去る八月八日午前十時、全国すべての出雲大社おしえのにわにおいて、いつせいに「同文の祝詞」を奏上し、『がんばろう日本』と平安を祈る「天・地・人、平安ミホグ大祭」が斎行され、「大震災復興祈願」「美しい国日本」の平安のヨミガエリの祈りがご奉仕お仕えされました。

上させて戴きました。管長様は、このたびの大祭で日本人の心のヨミガエリが『美しい国日本』のヨミガエリにつながることを御教示くださいました。日本人が先人達から受け継いだ「道徳心」をヨミガエらせることが大切であると説かれました。この大祭の祝詞―神賀詞では、現代日本人の心の荒廃を神々に詫び、許しを乞いました。そして心の洗濯である『心田灑掃』をお誓い申し上げました。後文に、『天』には、心樂しき恵みのエニシの、オカゲサマの祈りを、『地』には、心豊けき稔りのエニシの、オカゲサマの祈りを、『人』には、心和けき支え合うエニシの、オカゲサマの祈りを、とタマムスビ祈り合う…』として、結び

に、『悠久』世に産霊はれて、無窮世に生かされる、中今 尊し』と結ばれました。

函館教會では、毎朝の御日供祭にて東日本大震災で被災し犠牲になられた皆さまの冥福の祈りと、被災者の幸せ回復の祈りと、被災地の一日も早い復興の祈りを、御親大神「大國主大神様」にご祈念し、御守護導きくださいますよう祈り続けております。

このたびの大震災はまさに、『天・地・人、平安ミホグ大祭神賀詞』にてお教え戴いているとおり、『今様の物の豊かさに溺れる人の世の、奢りの果ての人災のワザ』であります。このことに日本人ひとりひとりがしつかりと『気づく』ことが大切であります。この気づきにより、『己の愚かさ』を省み、物に惑いて奢れるを、悔い詫びることができ、『心田灑掃』を成すことができるのです。ひと

りでも多くの人々に気づいて戴きたいと願うばかりです。『美しい国日本』のヨミガエリは正に『みんながやれば大きな力』なのです。

◆◆『道徳訓』のヨミガエリ◆◆

▼あなたを生み育ててくださった両親に、「お父さんお母さん、ありがとう」と、感謝しましょう。▼兄弟のいる人は、「一緒にしつかりやろうよ」と、仲良く励ましあいましょう。▼縁あって結ばれた夫婦は、「二人で助け合っていこう」と、いつまでも協力しあいましょう。▼学校などで交わりをもつ友達とは、「お互い、わかっているよね」と、信じあえるようになりましょう。▼また、もし間違つたことを言つたり行つた時は、すぐ「ごめんなさい、よく考えてみます」と、自ら反省して、謙虚にやりなおしましょう。▼どんなことでも自分ひとりではできないのですから、いつも思いやりの心をもって「みんなにやさしくします」と、博愛の輪を広げましょう。▼誰でも自分の能力と人格を高めるために学業や鍛錬をするのですから、「進んで勉強し努力します」という意気込みで、知徳を磨きましょう。▼さらに、一人前の実力を養つたら、それを活かせる職業に就き、「喜んでお手伝いします」とい

という気持ちで、公 世のため人のため働きましょう。▼ふだんは国家の秩序を保つために必要な憲法や法律を尊重し、「約束は必ず守ります」と心に誓つて、ルールに従いましょう。

御奉納

- ◆【平成の大遠宮】御浄財
 - ◆平成十九年度 …… 97名
 - 一、金五十四萬弍千円也
 - ◆平成二十年度 …… 83名
 - 一、金三十八萬六千円也
 - ◆平成二十一年度 …… 80名
 - 一、金三十一萬円也
 - ◆平成二十二年度 …… 77名
 - 一、金七十九萬九千三百五十一円也
- (平成23年3月31日現在)
- ◆総合計……のべ三三七名
 - 一、金二百三萬七千三百五十一円也
- 右御浄財は全額御本社へ納めさせて戴きました。おかげさまで函館教會目標募金額金二百萬円也を達成することができました。衷心より厚く御礼申し上げます。

御教歌

出雲大社第八十代宮司
千家 尊福公

子を思ふ
親の恵し忘れずは

同じ心に
むつひあはなむ

【歌のこころ】

私達は親によつて生かされ、育てられ、伸ばされて、この世の中に立たせていただいたのですが、毎日のきびしい生存競争に疲れてしまい、それを忘れがちであり、ともしれば親を粗末にするような行為を起こしてしまいがちです。私達が今こうして在るのは親の恩恵でありましょう。そしてその恩恵は幾千万の言葉をついやしても尽くし切れぬものであります。幾千万の行為をもつても尽くし切れないものであります。私達の毎日の生活が幸せな一日であるためには、一つの言葉、一つの行為の中にひそんでいる親の心を素直にうけとり、その心につきしたがって、家族のだれもが心をあわせ力を尽くしあつて、親の恩恵に報いるつとめを怠つてはなりません。

